



2023年3月2日(木)～3日(金)

クマさん会・三原山(758m) & 椿祭り・「熱海組」初日レポート

～ Report by 石井 ～

予定日の天気予報が目まぐるしく変わり、「雨の可能性あるかも・プランの変更が必要か・欠航する場合も・山は強風も注意だろう」等々、出発前は情報が飛び交い、やり取りが頻発する状況が続いていた。
伊豆大島・三原山ハイキングはどうなるのだろうか？ 果たして、波乱の様相を見せていた結末は・・・

今回の「熱海組」参加メンバー
リーダー・「5時うのしゅう」
サブリーダー・「風の文三郎」
組子・「あんこ好きのイシ」
(組子が判る人は通)

*湯河原ハイクの様ないわれは書かない
この3人、天候・欠航・その他いろいろ
三者三様、成り行き任せの感じだった



○岡田港にある「ジオステーション岡田港」の3F「海のキッチン」で、バス待ちのコーヒープレイク



11:53・熱海組・いきなりの「富士山」・三原山登山口にて・(竹芝組・ごめんなさい)



話はスタート時点に戻るが、平塚 7:09・「15 両編成」の電車に乗り熱海駅へ、そこからバスで熱海港へ



9:00 発の「ジェット船」に乗る。8:17・竹芝組から「引き返し条件付きで出航」と連絡があった



乗船客は十数人だったように思う。ガラ空きだった。熱海組も同様に、「引き返し条件付き」だった



シートベルト着用サインが出る。座席の前にはウレタンのクッションが貼ってあった・緊急時の衝撃緩衝用

○ここで、竹芝組と熱海組の「同時刻位の海況」を 30days にアップされた写真で比較してみた



9:01・竹芝組の「ブーメラン号？」が「久里浜沖」を通過中の写真だろうか？

（写真正面の船の船尾の奥方向に、多分そうだと思うが「火力発電所の煙突？」が見える・・・）未確認
下の熱海組よりも「うねり」は、ややある様に感じるが、この時点ではあまり大差なしか？



9:10・熱海組は「セブンアイランド号」に乗船。出航後の港外の写真

「ウサギが飛んでいる」・（海用語で・風が強く白波が多く立っている時に使われる）
この状況では、釣り船等であれば、まず出ないだろう



経由地の伊東港へ向かう途中の初島だ



9：34・今は昔、プレイした川奈のコース、海上から見ると印象が違う。天城の山々も視界に入ってきた

9：39・竹芝組から、東京湾口の状況が悪く「引き返し中」と連絡が入った・・・まさかの残念！！



9：52・伊東を出た後、波浪で多少の揺れはあるものの、さしたる問題もなく航行していた。暫くすると「利島」が、うっすらと見え出し、「なんとか行けそうだ」、あとは「接岸が出来るかどうかだろうな」と考えていたら、岡田港が目前に・・・港は北向きの風裏だから大丈夫そうだと思って見ていたら



10:00・すんなりと接岸。予定より5分早く着いてしまった

定刻前の到着で、港内作業員がバタバタと慌てて出て来て係留作業を始めたのが、何ともおかしかった

ジェットフォイルは

右の写真の様に浮かせて航行するので

水の抵抗を受けにくくスピードが出る

ただ「高波」や「うねり」には弱いようだ

(航速は45ノット・83km)

<参考>

イージス艦は通常船舶では最速クラス

(航速は30ノット・54km)

こちらは戦闘艦で波高しでも大丈夫



上陸後、山頂登山口行きのバスには時間があるので、後方にある「ジオステーション岡田港」に向かった



「あんこ」が出迎えてくれなかったんで、これでご勘弁を・・・左から「抹茶・コシ・つぶ」、何の事やら



近年出来た建物なのだろう、館内は 1F が東海汽船関係・2F にお土産物屋・3F にカフェがある



10:50・建物前で「三原山・山頂口」行きに乗車・¥900。バスもガラガラだった（欠航の影響？）



11:17・三原山登山口（550m）到着・ドイツ語圏かと思われるカップルを除いて誰もいなかった



この時刻に、「つばめの兄弟」は
品川で残念会の酒盛り中
何やら楽し気な感じがする
池戸さんは、三浦海岸へ・ナンパ（花見）に
行かれたらしい



さて、山登り前のランチだ。右の様な洒落たカフェもあったが、左の「ガッツリ系？」にした

中に入ると、人っ子一人おらず
「がらん・ガラン」と音が鳴っていました
手前の入り口付近に、お土産スペースがあり
結構広いのだ
団体観光客相手の食堂の様だ
でも、「昔のあんこ」さんは、愛嬌があった



リーダーが食べているのは「・です」。ランチ不要のメールを読み落として、持参した物があったとか・・・



サブリーダーの「抹茶」さんは、怒っているのではない。「天ぷらそばセット」を食しておられるのだ



「つぶ」は「椿天井」。椿の花びらが・と想像したのですが・「椿油を混ぜたオイル」で揚げたあるとの事写真よりも、「明日葉」は大盛でした。この後も、「椿・・・」に関しては、色々ありました



冒頭で富士山をお見せしたので「伊東側の景色」もご覧あれ・・・



12:00 過ぎ・「三原山」、登山開始である。風は吹いていたが寒さはあまり感じなかった
「欠航にもならず・雨にも遭わず・烈風にさらされとも思わず」、そんな楽しい登山が・・・



登山道口を降りると案内板があり、真ん中のブルーの線の「舗装された火口遊歩道コース・2.2km・45分」ではなく、舗装道路が嫌で、右のオレンジ色の線の「周回乗馬コース・砂道・2.8km・60分」を、独断気味に選択して貰った。「馬しか行けないのか？・砂道？」・・・よく判らないけれども何とかなるだろう



更に行くと「周回乗馬コース」ではなく、「表砂漠コース」とある。右方向はこれしかないので行く事にした
登山客が大勢来るだろうに、この表記は？！（*持参したマップには「表砂漠」とあったので理解はしたが）



進んで行くと砂地ではあるが、砂漠感はない。馬ではなく人の足跡が多くある。大きな岩は何処から来たのか



30 分程、砂のなだらかなアプローチ道を歩くと、三原山の裾野付近に出た。周りを見渡すとコース案内にあった「表砂漠コース」にふさわしい景観だった



さらに行くと、鳥居があったのでここで記念撮影をすることにした。風が強くザックを立ててカメラを置いたが倒されてしまった。「クマ旗」も下を抑えていないと、はためて形にならない状態だった



ジグザクのつづれ織りの山道を登って行くと、「伊豆七島」の「利島・新島？・三宅島」辺りが、見える様になって来た。雲は無いが、昨日の雨で空気中の水蒸気が多いのか、茫洋と霞んで見える



さらに登ると、伊豆半島も大島との間の海も良く見えた。海はいい・・・



12:56・約 50 分程度で、火口一周コース上に到着

花粉？で、鼻ずるズルのおじさんも



山頂（剣ヶ峰）は吉松さんが指差す方向にある

これでは「剣ヶ峰」を遮って使えませんよ～



周回を始めると、吹きっ晒しの山頂部は突風気味で、帽子も押さえていないと持っていかれそうになる

13：14・山頂中央火口部に到達
何かしら拍子抜けの光景だった

「みはあらあ～やまあ～かあらあ～
ふきだあすう～けえむうりい～」
出でいないのです・・・噴煙無し
「御神火」と言われる三原山なのだが
・・・つまんないなあ～・・・



剣ヶ峰（758m）へと歩みを進めて行くと風のレベルが一気に上がって来た。指差すのが好きらしい



13：20 分頃・間もなく剣ヶ峰という所で、なんと凄い「烈風」が吹き始めた。フルスロットルだ！！
吉松さん曰く、「20m」は吹いていただろう・・・

「やっとこさ」立ってられる状態で、スムーズには歩けず、ロープや支柱に掴まってやり過ごす
ここからは、風の呼吸に合わせながら、ロープや支柱に頼りながらのノロのろ歩行になった
写真を撮るのも一苦勞で、支柱に体を寄せて写した

今思えば、「御神火」なのに噴煙も無く「つまんないなあ～」と思った事が、三原山の神様の不興を買い
それではと、「御烈風」で応えてやろうとされたのかも知れない・・・三原山の神様、「恐るべし！！」
剣ヶ峰は、記念撮影どころではなく、「すたこらさっさ」と通り抜けるしかありませんでした
でも、結構「面白かった」です。「神様のいたずら」・・・



1986年の割れ目噴火・B2火口とあったが、ここではそれなりに噴煙が見られた



剣ヶ峰を過ぎても風は強かったが、下りきった辺りでやや一息となった。右は演技をする余裕も



下山道は緩やかだったが、相変わらずの強風だ。枯れ尾花が右方向へ強くなびいている



標識に、「大島温泉コース」・「テキサスコース」とある。右は地震観測用の施設だ
右手のテキサスコースに行けば、「大島公園」の近くに出るようだが、途中の「テキサス」は、どんなだろう



はるか彼方に「大島温泉ホテル」が見えている。眺めのいいところだった。「ゆっくり・お散歩」気分だ



吉松さんが指さす先を見ると、B2 火口から噴煙が出ている、と言いたらしい



途中には、「ロックガーデン」があったが、中までは入らず「とっとと」通過した
次回来ることがあれば散策してみたい・・・



空もすっかりドピーカンになり、「陽だまりハイク」だ。気持ち良くて遊んでしまった



ホテルの近場付近になると、徐々に植生が変わって来た



「すみれ」ちゃんが、頑張って咲いていた。しっかりと整備された遊歩道の様な感じだった



「いつか森になる道」とは、関係者の心根が伝わっている。この辺りからは「こもれびトンネル」だそうだ



トンネルの主演は、やはり「やぶ椿」だった



14:40・ホテル(496m)到着。遠回りの表砂漠コースを通して来たが、予定よりも20分早かった
 ここでも、「あんこ」は出迎えてくれなかった。チェックインを済ませ部屋へ



部屋から三原山を望む・遮る物や人工物の無い美しい展望だ
 お昼に見た海越しの、陽光の中の「富士山」と、夕暮れ前の「三原山」。何れも心地いい景色だった
 いささか「年季の入ったホテル」だったが、三原山ハイクには最適のロケーションだろう



部屋では「つばき」が待っていてくれた



文さんは、用心して「お茶け」



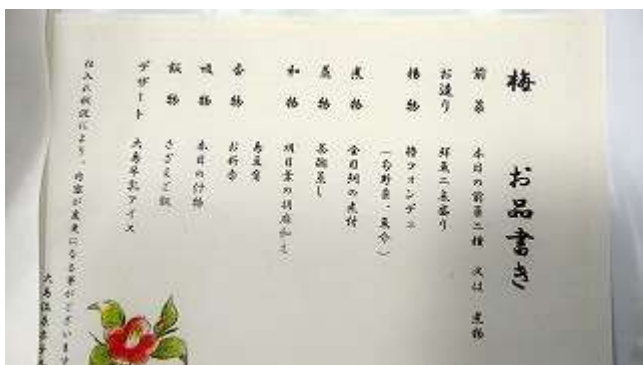
吉松さんと石井は、「500」で乾杯・沁みわたる



17:57・夕食前の三原山



夕食会場は今日の定番「がらがら」である



お品書きに「梅」とある。「椿・つばき」と、こだわっている割には「梅」？





雄さんから「椿フォンデュ」で良いですかと聞かれて、皆さん「お任せです」と答えたのだが
チーズフォンデュのイメージがあり、食べ終わった後でも串揚げだったと思い込んでいた
よくよく考えると、「椿油のオイルフォンデュ」だった様で、横に置いてある器の「バター液？」を
付けて揚げるやり方が、誤解を生んだような気がする。笑い話もいいところだった・・・



締めは神津島の麦焼酎、檜樽貯蔵熟成の「盛若」

夜半に空を見上げると、「星さんたち」が、「ピカ・ちか・ぴっか」としておりました

今回の「伊豆大島三原山&椿祭り」は、竹芝組が船の引き返し（欠航）で来られず残念でしたが
熱海組は、雄さんの企画のお陰で「御烈風」など、色々楽しめたハイクになりました。
とりわけ、花（つばき）より団子（風景・海・山）の石井は、あんこ（伊豆大島）が好きになりました。
「あんこさん」には会えなかったけれど
「あんこ椿は恋の花」を口ずさむ様になってしまいました。

改めて、雄さん、「ありがとうございました」

竹芝組は近日中にリベンジを計画されておられますが、天候に恵まれますように・・・